

令和5年度

海陽中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業、意欲を引き出す授業を実践する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。
(家庭学習の充実)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 百々 佳代	委員	1学年主任	大崎 綾子
		2学年主任	丸岡 弘典
		3学年主任	鳥澤 和佳

校長

龍田 雅和

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を問う問題に対しては、意欲的・積極的に取り組むことができている。 ●学力の2極化傾向があり、家庭学習が定着していない生徒もいる。	①積極的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ②家庭学習が毎日の生活の中に定着している。	①各教科ごとに知識・技能の定着の様子を確認する(小テスト等)。定着が不十分な生徒については、個別に指導していく。 ②家庭学習調査を実施する。適切な課題を提示したり、個に応じた指導を工夫したりする。	・朝学習時などを利用し、小テストを実施していく。 ・家庭学習調査を継続して実施しその結果を有効に活用していく。	・基礎基本の内容を習得させるために小テストの実施は効果的であった。授業中も引き続き実施していく。 ・テスト期間は家庭学習について意識づけができているが、普段の生活の中でなかなか定着していない。	・学力の二極化傾向があり、引き続き基礎基本の定着を目標としていく。学習が苦手な生徒、家庭学習が定着していない生徒について、個に応じた課題の提示や、具体的な学習方法のアドバイスなどを行っていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○求められる答えが明確なものや、単純化されたものについては、積極的に取り組み発表することができる。 ●語彙が少なく、自分の考えを筋道を立てて説明することや、相手にわかりやすく伝え表現することに課題がある。	①自分の考えを、他の考えと比較して説明したり、文章表現したりすることができる。 ②自分なりの考えをもち、他者とのコミュニケーションを大切にしながら、思考の幅を広げ、学びを深めることができる。	①授業の中で、考え方を説明したり、知識・技能を活用したりする問題を意図的に取り入れる。 ②読書活動の習慣化を図り、語彙を習得させ、グループ活動などを適宜取り入れて、他者との意見交換の場を設定する。	・自らの意見を発表する場をできるだけ多く設定する。小グループ等で意見交換をするなどの工夫をする。 ・読書週間(テスト後の1週間)を設定し、語彙習得の手立てとする。	・各教科の授業の中で話し合い活動やグループでの活動の場面を多く取り入れたため、少しずつ自己の考えを表現できるようになってきている。 ・語彙の定着には個人差があった。様々な知識、語彙の習得のためにも読書活動を引き続き推進していく。	・様々な形態での表現活動を今後も推進していく。そのためにできるだけ多くの語彙を習得させていく。 ・ICTを活用し、表現活動の活性化や、生徒の理解や思考力、判断力の育成に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、真面目に取り組むことができる。定期テスト前の課題の提出等も熱心に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけて、目標を設定したり、将来への展望を持って意欲的に取り組んだりする姿勢に乏しい。	①計画的に学習に取り組み、わからない課題や不得意な分野の学習にも、粘り強く取り組むことができる。 ②将来への展望をもち、学習に対して自分なりの目標を設定し、努力することができる。	①学習計画を立てさせ、個別にアドバイスをし、各教科の中でどのような内容に苦手さを感じているのかを把握し、授業の中でアドバイスをしていく。 ②総合的な学習の中での体験活動や、町内の外部講師との連携を通して、キャリア教育の充実を図り、将来への展望を持たせる。	・テスト期間中に星取り表を活用し、学習計画を立てさせる。個人面接なども取り入れ、個別指導をしていく。 ・地域の方や関係機関の方々と連携しながら地域の魅力や課題について考えさせる。	・学習計画を立てる際に、自分の課題に対してどう向き合っていくか、苦手さを克服するための学習方法について考えることができる生徒が少ない。 ・総合学習において、学年・グループごとに課題意識をもって取り組むことができた。	・個別の学習課題に対して、どのような学習方法が効果的なのか、アドバイスを与えながら、考えさせる。自ら目標を設定し、課題を見つけられるように手立てを工夫していく。 ・キャリア教育を充実させ、将来への展望をもった学びが実現できるように指導を継続していく。

令和5年度 学力向上ロードマップ



